

令和2年4月6日

保護者の皆様へ

横浜市立根岸中学校

校長 山岸 和美

令和2年度 入学式 学校長式辞

みなさん、根岸中学校へご入学おめでとうございます。

正門の桜は、先週の思いがけない雪のため、昨年より満開になるのが遅くなりました。そのおかげで、本日はみなさんを待っていたかのような桜吹雪です。校庭内の花々も、例年のようにみてる生徒はいないけれど、一生懸命咲いています。

世界中が今、見えない敵と闘っています。医療や行政などそれぞれの分野において、自分たちができる最善の努力をしています。先生達もみなさんを迎えるにあたって、限られた時間の中、みなさんに何をしてあげられるか考え、準備してきました。みなさんにおいては、先月の小学校の卒業式から、本日の入学式において、多大なる影響を受けました。そんな中で本日はいつもとは違う入学式になりましたが、みなさんの元気な顔が見られて本当に嬉しいです。根岸中学校の先生方も全員で早くから準備していました。また、勉強の遅れを少しでも取り戻そうと、課題を準備してくれています。もうあなたたちは根岸中の生徒です。ほぼ根岸小学校からの入学の生徒ですが、他の小学校から入学した生徒もしばらくつとどこの出身かがわからないくらい仲良くなっています。安心してください。先生方はいろいろな持ち味のある方々で、きっとみなさんはこれから素敵なお出迎えが待っています。

今まで当たり前に通っていた学校に通えなくなりました。こんな時だからこそ、自分を見つめ直して、自分に何ができるか、そのために自分はどうしたらいい、と考えてみてください。時間があるこのときこそ、自分を磨くチャンスに使ってください。

大半は新しい標準服に身を包み、さあ、これから中学頑張るぞ、と意気込んでいた人が多いことでしょう。であるのに、このコロナ禍で出鼻をくじかれた、と憤っていることでしょう。一方で、友達との関わり方がよくわからず学校に行くのが、億劫だと思っている人も中にはいるかも知れません。そんな人達を魔法にかける準備をしています。学校が再開したら楽しみにしててください。根岸中学校は先生も生徒もワンチームです。

見えない敵に対して、「予防することはできる。かかるのを遅くする、人にうつさない。それでも、かかってしまったら、養生してなおす。」人との関わりについても同じことがいえます。「いろいろな事をしっかり学習して、知識を蓄える。荒唐無稽なことについて振り回されない。自分がなんともできないことは気に病まない。」自分の気持ちの持ちようは自分でコントロールできます。「折れないしなやかな心」を育成して困難を乗り越えられる力をつけてほしいです。一年生の先生方は特に「支え合い、高め合う学年」にしたいと話していました。先生達も自分の持ち味を活かして、みなさんをサポートします。

今日は残念ながら紹介はできませんが、本校の校歌は「みよ玲瓏の花の色」で始まります。れいろいろのれいは、令和のれいと同じく美しいさまを表します。本校の校章は菊の花です。根岸小学校の校章の菊の葉が成長してつぼみがつき、これからの根岸中で希望の花を咲かせられるように歩いてほしいと思います。

今日、とても心配して送り出してくれた保護者の皆様に、無事入学しましたと、声に出して感謝の気持ちを伝えてください。

保護者のみなさま、地域のみなさまと共に、みなさんを育てていきたいと思ひます。

令和2年 4月6日 根岸中学校長 山岸和美

保護者のみなさま、今日はお子様の晴れ姿をお見せできず申し訳ありませんでした。

本日、92名の生徒は無事、根岸中に入學いたしました。義務教育後期3年後の卒業をイメージして学校教育を開始いたします。これからどうぞよろしく願いいたします。

わたしは、教員生活では長く「器を大きく」というモットーでそれを目指してきました。人にはそれぞれ持っている器があって、その器が大きければ大きいほど、いろいろなことが吸収でき、人間的に大きくなれる、と思っています。

その器を大きくするために、人には、感謝の気持ちをもち寛容な心で、自分自身は、自らを律し学び続けることが大切だと思います。その学びは教科の知識だけではありません。心を寄せ合う、つまり人の関わり方、コミュニケーションの取り方を学ぶことです。

どうか「自分の器を大きく」して行ってください。器が大きければ、どんな逆境に遭遇してもくじけることはありません。

根岸中学校の学校教育目標は、生徒一人ひとりの個性を大切に、自らの可能性を信じ、たえず成長していこうとする人間の育成を目指すことです。

学校は子どもたちが「社会の中でよりよく生きていけるようにする」ためにあると私は考えます。そのためには、子どもたちには「自ら考え、自ら判断し、自ら決定し、自ら行動する資質」すなわち自らを律する「自律」する力を身に付けさせていく必要があります。社会がますます変化する時代だからこそ、私はこの「教育の原点」に立ち返らないといけないと考えています。

これからも保護者の皆様と我々教職員とはともに子どもたちを育てていきます。子どもたちを教え育てるためには、保護者の皆様と我々教職員との信頼関係を基盤とした連携が必要です。学校の教育実践についてのご理解とご協力をお願いいたします。何かございましたら学校にご連絡をいただきたいと思っております。地域のみなさま、どうか今までと変わらず、地域に戻ってくる生徒の育成にお力添えをお願いいたします。

